

【奉祝 天皇陛下御在位30年・三神合祭殿再建200年】

国宝 羽黒山五重塔 特別拝観

羽黒山に残る建造物として最も古い国宝羽黒山五重塔は、明治以降公に開扉した記録はありません。

平成30年は天皇陛下御在位30年の佳節の年にあたります。

また出羽三山神社においても三神合祭殿再建200年、羽黒山が神社となってより150年の節目の年にあたります。

これらを記念し国宝五重塔内部を特別に一般の方々に公開致します。

平成30年4月28日[土]→11月4日[日]

| 公開時間 | 午前8時30分→午後4時30分

| 拝観料 | 大人500円//共通券700円



覚諄別当が山麓修験者に託した

羽黒三所大権現の 秘仏 本邦初公開

羽黒山頂儀式殿

平成30年4月28日[土]→11月4日[日]

| 公開時間 | 午前8時30分→午後4時30分

| 拝観料 | 大人300円/共通券700円

◎お問い合わせ

出羽三山神社 tel.0235-62-2356 URL <http://www.dewasanzan.jp/>
fax. 0235-62-2352 〒997-0292 山形県鶴岡市羽黒町手向字手向7

【奉祝 天皇陛下御在位30年・三神合祭殿再建200年】

国宝 羽黒山五重塔 特別拝観

国宝五重塔の建立に関して、慶長13年(1608)に最上義光が大修復したときの棟札に、「承平年中(931~38)平将門(903~40)建立」とあるが、現在の塔は建築様式から鎌倉・室町時代(1312~1495)と見られる。明治までは羽黒山の本地仏である聖観音菩薩を中心に妙見菩薩と軍荼利明王を両脇に安置していたが、維新後は大国主命を祀る。高さ29.4m、三間五層の素木造り、屋根は柿葺き。昭和41年(1966)国宝に指定された。

明治初年(1868年)、明治新政府は神仏分離令を発し、開山千数百年余の歴史をもつ出羽三山は神社となった。また、昭和期に国宝となった五重塔の内部は「秘中の秘」とされ、人々の目に触れることは考えられなかった。

【拝観内容】

- 初重(一階)
 - 平安時代の三跡 小野道風筆と伝える額
 - 内部構造の映像
 - 五重塔覆鉢台座拓本 他
- 二重(二階)
 - 心柱を中心とする内部構造



小野道風筆と伝える報身(正面・西)、応身(右・西)の額



門前之宮や庭園など随神門周辺は
歴史情緒漂う絶好の散策エリア

覚諄別当が山麓修験者に託した 羽黒三所大権現の 秘仏 本邦初公開

【場所】羽黒山頂儀式殿

仏像に託された覚諄と又兵衛の想い、
時代を超えて脈々と息づく信仰の絆

文化8年(1811)閏2月11日、ご本社からの出火で周辺の行者堂、開山堂、弁財天堂、稲荷堂まで焼き尽くしてしまった。火災より2日後、山麓手向村の衆徒天羽又兵衛は御神秘の早期再建にと田地を売って作った300両を献納したことから、覚諄が別当として入山した同10年に再建を果たすことができた。覚諄別当は造営の功労者として、天羽又兵衛を別当所出仕賄役次席に取り立てた。

さて、天羽又兵衛家には羽黒三所大権現である大日如来・阿弥陀如来・観音菩薩の3軀をはじめ、不動明王・弁才天の2軀の仏像が安置されている。当家には、覚諄別当がご本社再建を果たした折、再び本社やその周辺が火災に遭ったとき、これを御本尊として祀るように託されたと伝えられている。

平成30年、羽黒山三神合祭殿再建200年を記念して、この仏像5軀を羽黒山頂儀式殿にて公開することになりました。



特製クリアファイル

じやっこういらいせん
寂光祝膳
蜂子皇子が道すがら
食したのであろう在来野菜を
盛り込んだ御膳

羽黒山の開祖蜂子皇子は鶴岡市由良の八乙女浦に上陸し、在地の民に食べ物を恵んでいただき、三本足の八咫鳥に導かれ、羽黒山に辿り着いた。修行の後、天皇に本尊を祀る社の建立を願い出て許され、鳥に因んで羽黒山寂光寺と宣下された。皇子は大変欲ばれば、羽黒山のお社が永遠であることを願い歌に詠まれた。

みやごもれ おのがはぐるの やまがらす
宮護禮 我跡羽久呂之 陽満迦羅壽
かしらもはねも しろくなるまで
頭母羽根毛 城来成萬天

羽黒山三神合祭殿再建200年を記念し、開祖の道中を支えた在来野菜を取り入れた祝膳をご用意致しました。

【期間】平成30年4月28日[土]→11月25日[月]

【料金】3,240円(8品にお土産付き)※3日前まで要予約

◎お問い合わせ・予約

羽黒山齋館 tel. 0235-62-2357